

**特集****黄華堂メンバーの日食****～それぞれの場所で、それぞれの立場で～**

尾崎勝彦（フリー）、橋本未緒（佐賀県立宇宙科学館）

塚田健（姫路市宿泊型児童館・星の子館）、鎌田麻里（千葉市科学館）

成田直（豊能町立吉川小学校）

**1. はじめに**

本会においては何度か活動紹介をさせてもらっているが、我々は「黄華堂」（代表：有本淳一氏）というグループのメンバーである。最近、黄華堂では星のソムリエ資格認定講座を開いたり、トークイベントをしたりとさらに活動の幅を広げようとしている。

それらの活動の一つとして、毎月1回のメールマガジン（以下、メルマガ）を配信している。本稿では、そのメルマガのために集められた原稿からメンバーの日食体験記を紹介する。

**2. それぞれの場所、立場で**

黄華堂は様々な立場のメンバーで構成されている。今回紹介するメンバーだけでも大学講師、学芸員、小学校教員となっている。さらに学芸員だけを取り上げてみても佐賀、兵庫、千葉と活躍している場所も様々だ。そんな多様性も黄華堂の魅力の一つだと思う。それでは早速、それぞれの日食体験記を読んでもらおう。

**2.1 尾崎勝彦の場合**

当日・当時、芦屋市六麓荘(超高級住宅街です)の短大での講義中でした。授業の内容と何の脈絡もなく、「ちょっと休憩」と称して、学生らをバルコニーに連れ出して観察しました。学生は4人だけなので日食グラスの廻し見をしようと思ったのですが、太陽は厚い雲に覆われグラスを通すと全く見えませんでした。が、幸いなことに肉眼でさほどまぶしくない

程度の雲厚で、薄い三日月様がはっきりと見て取れました。何箇所かのバルコニーにも学生が出て来て見ていましたが、教務の人も出てきたので、サボっていると思われたらマズイので(ま、授業はサボっているのですが)、授業を再開しました。因みに当日の授業の内容(認知症)とは全く関係ないので、一切の説明はしませんでした。

**2.2 橋本未緒の場合**

佐賀は9割欠ける日食ということで、かなり期待されていました。食の最大のときは曇ってしまい、太陽は観察できませんでしたが、あたりは夕方のように少し薄暗くなり、冷房のような涼しい風があたりに吹きました。雲間からのぞいている青空が、全体に色が落ちたような感じで、「暗い青空」が不思議な感じでした。

**2.3 塚田健の場合**

兵庫県姫路市にある当館での日食観察会は約400の方がお越しになり、朝のうちは心配な天気だったのですが、徐々に雲が薄くなり、始まりから終わりまで、時々雲に隠されながらも全経過見られました。食の開始や食の最大、食の終了など、要所要所は晴れてくれました^^ ピンホールで字を書くというのは挑戦しましたが、光量が足りず、厳しかったです。なんとか、少しは撮れましたが…。8cm 屈折望遠鏡も出して、欠け初めや終わりは望遠鏡が大人気でした。

## 2.4 鎌田麻里の場合

花山天文台のツアーに参加し、奄美大島で皆既日食を体験してきました。曇りのため、ダイヤモンドリングやコロナは見えませんでした。欠けていく様子を観察することが出来ました。皆既が近づくと、辺りが夕方のように暗くなり、太陽の光が消えた瞬間には、拍手と歓声があがりました。

奄美大島は日食帯の端に位置していたので皆既が起きていない南の空が明るいままなのが観察でき、とても印象的でした。また、日食により気温にも変化がありました。食の最大から10分後に一番気温が下がりました。

## 2.5 成田直の場合

舞台は大阪府北部の小学校です。残念ながら私自身は水泳指導と個人懇談と翌日からの宿泊行事のためにトカラ行きは断念せざるを得ませんでした。その代わりに勤務先である小学校で観察会を開いたわけです。

4月の職員会議において年間行事予定が提案された時点でこの会を開くことでの了解をとりました。何せ水泳指導と個人懇談の時間帯ですから勝手に観察会をやるわけにはいかないのです。そのように戦略的に事を進めながら、夏休み前に告知を行い、当日はのべ50～60人ぐらいの方に参加いただきました。これでも児童数120人の学校ですから多い方です。

予め世界天文年2009日本委員会公認企画に認定していただいていたのでVixen製のグラスを20個用意できました。雲が多かったのですが、10時台には薄雲を通して何度か欠けた太陽を確認することができました。正直、子どもたちよりも保護者の方が感動が大きかったように思います。見えたり隠れたりなので、子どもの集中力では厳しいものがありました。

また、欠けた太陽の姿は見えなくても明らかに体感温度は変化しました。曇っていたので正確な測定結果にはなりません。温度計で気温を測ると2℃ほど下がりました。最低気温は最大食の時刻よりも少し後でした。

またこのような機会には子どもたちや地域の方々にも広く呼びかけて、大勢で感動を共有したいです。

## 3. おわりに

今回皆既帯にいたのは鎌田さんだけだったが、部分食であれ一つの天文現象を巡ってそれぞれにエピソードがあるということがメルマガ編集長として編集作業をしていて大変面白かった。十人十色ならぬ十人十日食である。

なお、本稿の元となった記事は黄華堂メルマガで読むことができる。まだ配信登録をされていない方はぜひ下記URLからの登録をお待ちしております！

黄華堂メルマガ登録フォーム

<http://www.oukado.org/information.htm>

## 文 献

[1] 黄華堂メルマガ 2009 8月号

<http://www.oukado.org/merumaga.htm>